

福島第一原子力発電所の状況

2017年2月6日
東京電力ホールディングス株式会社

< 1. 原子炉および原子炉格納容器の状況 > (2/6 11:00 時点)

号機	注水状況		原子炉压力容器 下部温度	原子炉格納容器 圧力	原子炉格納容器 水素濃度
1号機	淡水 注入中	給水系：約 1.5 m ³ /h	14.7	1.12 kPa g	A系： 0.03 vol %
		炉心スプレイ系：約 1.5 m ³ /h			B系： 0.00 vol %
2号機	淡水 注入中	給水系：約 2.1 m ³ /h	17.4	5.47 kPa g	A系： 0.04 vol %
		炉心スプレイ系：約 2.4 m ³ /h			B系： 0.02 vol %
3号機	淡水 注入中	給水系：約 1.9 m ³ /h	16.1	0.25 kPa g	A系： 0.04 vol %
		炉心スプレイ系：約 2.5 m ³ /h			B系： 0.05 vol %

[3号機]

・原子炉への注水量は、冷却に必要な注水量より余裕をもって注水(約 4.5m³/h)しておりますが、建屋内滞留水の浄化促進に向けて、2017/2/8よりプラントパラメータの状況を監視しながら、順次原子炉注水量を 0.5m³/h ずつ減らし、最終的に約 3.0m³/hまで段階的(STEP ~)に低減する操作をする予定。
各段階においては、原子炉压力容器底部温度および原子炉格納容器内温度等のプラントパラメータを監視しながら、慎重に進める。なお、操作期間は 2017/2/8(STEP)から 2017/3/1 までを予定しています。

STEP : 原子炉注水量を約 4.5 m³/h から約 4.0 m³/h へ低減

低減操作後に原子炉压力容器底部温度および原子炉格納容器内温度の上昇が想定範囲(低減操作前と比較して 7 °C 以内)であることを確認。(1週間程度)

STEP : 原子炉注水量を約 4.0 m³/h から約 3.5 m³/h へ低減

低減操作後に原子炉压力容器底部温度および原子炉格納容器内温度の上昇が想定範囲(低減操作前と比較して 7 °C 以内)であることを確認。(1週間程度)

STEP : 原子炉注水量を約 3.5 m³/h から約 3.0 m³/h へ低減
低減操作後に原子炉压力容器底部温度および原子炉格納容器内温度の上昇が想定範囲(低減操作前と比較して 7 °C 以内)であることを確認。(1週間程度)

< 2. 使用済燃料プール(SFP)の状況 > (2/6 11:00 時点)

号機	冷却方法	冷却状況	SFP 水温度
1号機	循環冷却システム	停止中	*17.8
2号機	循環冷却システム	運転中	27.2
3号機	循環冷却システム	運転中	26.7
4号機	循環冷却システム	運転中	13.6

各号機 SFP および原子炉ウェルヘドラジンの注入を適宜実施

* 代替冷却システム停止中のため、水温度に関しては 1/24 5:00 現在のデータを記載。

[1号機]

・2017/1/24 ~ 使用済燃料プール(SFP)代替冷却系の一次系について、当該系統の一次系冷却ポンプ点検のため停止。2/11 5:00 冷却再開予定。

[2号機] [3号機]

・2017/1/10 ~ 1 ~ 3号機使用済燃料プール共通の二次系冷却設備(共用設備)の過剰な冷却(凍結)を防止するために、共用設備の空冷式熱交換器(エアフィンクーラー)を停止。外気温が十分低いため、凍結防止の観点よりエアフィンクーラーの停止運用を行うが、必要に応じ間欠運転で使用済燃料を冷却する運用を行う。

< 3 . 水処理設備および貯蔵設備の状況 > (2/6 11:00 時点)

設備	セシウム 吸着装置	第二セシウム 吸着装置 (サリー)	淡水化装置 (逆浸透膜)	淡水化装置 (蒸発濃縮)	多核種 除去設備 (ALPS)	増設多核種 除去設備	高性能多 核種 除去設備
運転 状況	停止中*1	運転中*1	水バランスを みて断続運転	水バランスを みて断続運転	ホット 試験中*2	ホット 試験中*2	ホット 試験中*2

*1 フィルタの洗浄、ベッセル交換を適宜実施。 *2 高性能容器(HIC)交換等を適宜実施。

< 4 . その他 >

- ・2014/6/2～ 陸側遮水壁工事を開始。
- ・2016/3/31～ 試験凍結において、ライン(不凍液)循環設備の健全性の確認等ができたことから、凍結運転(第一段階:1～4号機の海側全面と山側の一部の凍結)を開始。
- ・12/3～ 陸側遮水壁山側の一部(未凍結箇所7箇所)のうち2箇所(1号機西側の一部および4号機西側の一部)について、凍結運転(第二段階)を開始。
- ・2015/5/27～ 構内で今後使用しないフランジボルト締めタイプのRO濃縮水貯槽の解体作業を開始。
- ・2016/10/5～ 1号機タービン建屋滞留水処理を進めるため、1号機主復水器内貯留水を1号機廃棄物処理建屋へ移送実施中。
- ・2017/1/30 2号機原子炉格納容器内部調査について、ガイドパイプに取り付けたカメラによるペDESTAL内事前調査(自走式調査装置のペDESTAL内調査範囲の状況)を実施。
- ・2017/2/6 2016/12/14に発生した4号機タービン建屋内に設置してある淡水化装置からの水の漏えいについて、A系およびB系の点検を実施した結果、耐圧ホースとステンレス配管のジョイント部に外力が加わり、ジョイント部のゴムリングのシート機能が低下したことが原因と推定。このため、当該ホースのジョイント部にサポートの取り付けを実施。その後、淡水化装置A系の漏えい確認を実施し、異常がないことが確認されたため、12:50に運転を再開。今後、淡水化装置B系についても同様の処置を実施し、運転を再開する予定。

[3号機燃料取り出し用カバー等設置作業]

- ・2017/1/17～ 使用済燃料プールにて保管している燃料取り出しによる福島第一原子力発電所のリスク低減に向けて、燃料取り出し用カバー等設置作業開始。

[サブドレン他水処理施設の状況]

- ・2015/9/3～ サブドレン他水処理施設運用開始。
- ・サブドレン他水処理施設一時貯水タンクCの分析結果[採取日 1/30]について、運用目標値を満足していることを確認したことから、2/4 10:19～13:55 海洋への排水を実施予定。排水量 520 m³。
- ・サブドレン他水処理施設一時貯水タンクDの分析結果[採取日 1/31]について、運用目標値を満足していることを確認したことから、2/5 9:31～13:01 海洋への排水を実施。排水量 506 m³。
- ・サブドレン他水処理施設一時貯水タンクEの分析結果[採取日 2/1]について、運用目標値を満足していることを確認したことから、2/6 10:08～13:47 海洋への排水を実施。排水量 529 m³。

[地下水バイパスの状況]

- ・地下水バイパス揚水井 No.1～12 のサンプリングを継続実施中。
- ・地下水バイパス一時貯留タンク分析結果(Gr1)の分析結果[採取日 1/25]について、運用目標値を満足していることを確認したことから、2/7 海洋への排水を実施予定。

[1～3号機放水路の状況]

1～3号機放水路については、1号機放水路上流側立坑および2号機放水路立坑において、セシウム 137 の濃度が上昇したことから定期的に水質調査を実施。

< 最新のサンプリング実績 >

- ・至近の測定結果と比較して大きな変動は確認されていない。

[H4、H6エリアタンク周辺観測孔(周辺排水路含む)の状況、タンクパトロール結果関連]

< H4・H6エリア周辺、福島第一構内排水路・南放水口のサンプリング実績 >

- ・至近の測定結果と比較して大きな変動は確認されていない。

[タービン建屋東側の地下水調査 / 対策工事の実施状況]

< 地下水観測孔・海水サンプリング実績 >

- ・至近の測定結果と比較して大きな変動は確認されていない。

【地下貯水槽からの漏えいに関する情報および作業実績】

- ・地下貯水槽 No.2 の貯留水については、汚染水保有リスクを低減するため、2016/6/1 10:05 当該地下貯水槽から多核種除去設備への移送を開始。なお、当該地下貯水槽には、約 1,400m³ の汚染水を貯留しているが、本移送においては、多核種除去設備での処理状況や受入タンク側の空き容量も考慮しながら、既設ポンプによる移送が可能な水位まで、断続的に移送を実施する予定。
- ・2016/3/1 に採取した地下貯水槽 No.1 周辺の観測孔 A11～17 の地下水を分析した結果、前回値(2/2 採取)の全ベータ放射能が ND (ND 値 22Bq/L) であったのに対し、最大で 200Bq/L に上昇していることを確認。なお、当該観測孔は 3 年前に地下貯水槽からの漏えいが確認された以降、ND だったが、全ベータ放射能の上昇が確認されたことから、漏えいの可能性も含めて調査を実施していく。

<最新のサンプリング実績>

地下貯水槽周辺の観測孔全ベータ放射能が上昇した件について、2/3、4、5 に採取した ~ 観測孔の水の全ベータ放射能分析結果は、至近の分析値と比較して有意な変動は確認されていない。また、その他の分析結果について有意な変動は確認されていない。引き続き、地下貯水槽および周辺の観測孔について監視を継続する。

以上